

当院に入院された心不全の患者様へ

当院では、2014年8月1日から2017年1月31日に当院に入院された心不全の患者様を対象として、病気の特徴や治療方法の違いを欧米の患者さんと比較する研究を行っております。本研究の対象者に該当する可能性がある方で、診療情報等を下記の研究に利用されることをご希望されない場合は、末尾に記載しました研究担当者までお知らせください。情報の登録、解析を行った後に協力取り消しを申し出られた場合は、本研究への協力を取り消すことができなくなります。なお、本研究への協力を拒否されても、今後の治療を受ける上で不利益が生じることはありません。

【研究名】 REALITY-AHF study と AKINESIS study のデータベース統合解析による日本と欧米の比較研究

【本研究の目的と意義】 心不全とは、心臓のはたらきが悪くなったために息切れやむくみが起こり、徐々に悪化して命を脅かす病気です。息切れやむくみが急に悪くなった状態を急性心不全と呼び、利尿薬によってむくみをとることが重要な治療の手段です。急性心不全に対する治療の内容や治療効果が人種や地域によって違いがあるかははっきりとわかっていません。この研究では日本の急性心不全患者のコホート研究である REALITY-AHF 試験(1)と、欧米のコホート研究である AKINESIS 試験(2)のデータを統合し、急性心不全患者に対する治療やその効果の違いを比較します。

【研究対象者・該当期間】 2014年8月1日から2017年1月31日に当院を受診され、REALITY-AHF 試験に参加された患者さんを対象としています。

【研究の方法】 REALITY-AHF 試験により収集された患者情報(年齢、性別、入院中の検査・治療内容、予後など)を用いて解析します。研究に伴う追加の検査等はありません。

【資料/情報の管理方法】 本研究では、取りまとめ施設である三井記念病院において仮名加工情報の状態で厳重に管理されます。

【個人情報の取扱いについて】 本研究で使用するデータは名前、住所、電話番号など、個人を特定できる情報は削除した状態で保管、解析されます。登録された情報は三井記念病院循環器内科にて厳重な管理のもと保管されます。本研究の研究成果は学会等で発表を予定していますが、個人が特定される形で情報が公開されることはありません。

【本研究の実施の承認について】 今回の研究の実施にあたっては、主機関である三井記念病院循環器内科の一括審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。

【本研究の利益相反】 研究に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

【研究担当者】

東京都武蔵野市境南町 1-26-1

武蔵野赤十字病院 循環器科 宮崎 亮一

電話：0422-32-3111

1. Matsue Y, Damman K, Voors AA, Kagiya N, Yamaguchi T, Kuroda S, Okumura T, Kida K, Mizuno A, Oishi S, Inuzuka Y, Akiyama E, Matsukawa R, Kato K, Suzuki S, Naruke T, Yoshioka K, Miyoshi T, Baba Y, Yamamoto M, Murai K, Mizutani K, Yoshida K, Kitai T. Time-to-Furosemide Treatment and Mortality in Patients Hospitalized With Acute Heart Failure. *J Am Coll Cardiol* 2017;69(25):3042-3051.
2. Maisel AS, Wettersten N, van Veldhuisen DJ, Mueller C, Filippatos G, Nowak R, Hogan C, Kontos MC, Cannon CM, Muller GA, Birkhahn R, Clopton P, Taub P, Vilke GM, McDonald K, Mahon N, Nunez J, Briguori C, Passino C, Murray PT. Neutrophil Gelatinase-Associated Lipocalin for Acute Kidney Injury During Acute Heart Failure Hospitalizations: The AKINESIS Study. *J Am Coll Cardiol* 2016;68(13):1420-1431.